



野津保

札幌市立上野幌中学校
学校だより第11号
令和8年3月13日

第37回卒業式～感謝を胸に、未来へ～

三年前、少し大きめの制服に身を包み、緊張した面持ちで校門をくぐったあの日が、昨日のこのように思い出されます。心も体も大きく成長しお子様の背中を見つめ、保護者の皆さまも感慨深い一日をお迎えのことと存じます。反抗期や進路の悩みなど、親子で向き合った日々の一つ一つが、今日という晴れの日をより輝かしいものになっているはずです。三年間、温かい愛情でお子様を支え、本校を支えてくださったことに、心より感謝申し上げます。

卒業証書授与式～式辞～（一部省略）

校長 太田 尚代

義務教育を終え、新しい世界へ踏み出す皆さんに、伝えたいことが三つあります。

一つ目は、心ない言葉に、振り回されないでほしいということです。今の社会は、人の失敗や弱さをつついで中傷したり、心ない言葉を投げつけたりする人がいます。メダルを取れなかったオリンピック選手に対して、SNSで誹謗中傷の言葉を投げかける人がいるというニュースが二月にありました。心ない言葉に触れたとき、「自分には価値がないのではないかと、自分を諦めそうになるかもしれません。でも、覚えておいてください。人を攻撃して自分を大きく見せようとする言葉には、何の価値もありません。そんな言葉に振り回されないでください。

二つ目は、世の中は捨てたものではないということです。心ない冷たい言葉が目につくこともあると思いますが、それ以上に、皆さんの弱さや失敗を包み込み、そのままの皆さんを理解しようとしてくれる人が、世の中には、たくさんいます。絶望しそうになったときこそ、周りを見渡してください。そっと手を差し伸べてくれる人、黙って寄り添ってくれる人、あなたの良さを信じ続けてくれる人が必ずいます。「世の中は捨てたものではない」と、そう思える瞬間が、この先、何度でも訪れます。だから、困難にぶつかった時や悲しみに暮れた時、孤独だと決めつけしないでください。

三つ目は、他人と比べず、自分を認めてあげてくださいということです。「隣の芝生は青く見える」ということわざがあります。自分のことに満足できず、他人の状況が、魅力的に思える心理のことを言います。他人と自分を比べる必要はありません。比べるべきは、他人ではなく「昨日の自分」です。完璧でなくても、格好悪くても、今日まで歩いてきた。そんな自分も悪くないと、自分で自分を認めてあげてください。自分を一番に認めてあげられるのは、他の誰でもない、皆さん自身です。

皆さんの未来には、まだ見ぬ出会いと、想像を超える喜びが必ず待っています。壁にぶつかったら休めばいいんです。休んだら、顔を上げ、また一歩ずつ歩き出しましょう。皆さんが、自分を信頼し、温かい理解者と共に人生を歩んでいけることを、心から願っています。

卒業生代表のことば

卒業生代表 3年

温かい日差しが心地よく、春の訪れが感じられる今日、私たちは卒業の日を迎えました。ご来賓の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様、在校生からのたくさんの祝福の中で中学校卒業という節目を迎えられたことを心から嬉しく思います。

上野幌中学校で過ごした三年間は驚くほどあっという間でした。三年前の四月、真新しい標準服に身をつつみ、緊張と不安でいっぱいになりながらこの体育館に入った日のことは、今でも鮮明に覚えています。教科担任制に部活動、定期テストなど初めてのことばかりで、毎日ドキドキしながら登校していました。しかし、先生方も先輩方もみんな優しく声を掛けて助けてくださったので、すぐに中学校生活に慣れ、不安や緊張は楽しみな気持ちに変わりました。

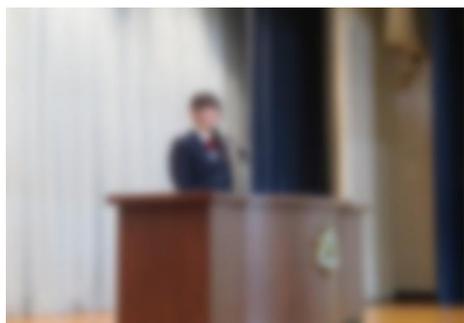
二年生になると、初めて後輩ができ、頼ってばかりではなく頼られるようになりたいという思いが芽生えました。委員会や部活動でも、大勢の前に出て話したり、大事な仕事を任されたりする機会が増え、責任感や積極性が身についたと思います。

そして迎えた三年生。全ての行事が最後となり、後悔が残らないようにどんなことにも全力で臨みました。特に印象に残っているのは修学旅行と秋華祭です。修学旅行では、なまはげ体験やねぶたの家の見学などを通して、東北地方の生活や文化について学びました。二泊三日という長い時間を過ごし、レクや移動時間に共に盛り上がったことで、学年全体の仲も深まったと感じました。秋華祭では最高学年としてふさわしい発表にし、全員に楽しんでもらえるように協力し合いながら、準備を進めました。合唱ではパートリーダーや指揮者、伴奏者を中心にたくさん練習を重ねました。当日は準備期間の集大成となる発表ができ、合唱でも今までで一番良い歌を披露することができました。

このように、私たちが楽しく充実した三年間を過ごすことができたのは、たくさんの方々が私たちを支えてくださったお陰です。先生方には、進路や学校生活での相談にのっていただいたり、委員会や学校行事での取組に協力していただいたりと、学業面だけでなくそれ以外の場面でもたくさんお世話になりました。

一、二年生の皆さんとは、委員会や部活動で関わる機会が多くありました。話し合いの時に積極的に手を挙げて意見を述べている姿や大変な練習にも全力で取り組んでいる姿など、先輩後輩関係なく見習いたいと思うことが何度もありました。廊下や玄関ですれ違った時に挨拶をしたり、声を掛けたりしてくれたことも、とても嬉しかったです。

さらに、家族の存在も中学校生活に欠かせないものでした。私がやってみたくてと言ったことは何でも背中を押してくれ、困った時には一緒になって考えてくれました。受験期に入ると志望校や生活リズムのことで何度も言い争いになりました。受験への緊張や反抗期を言い訳にして感情的になり、酷いことを言うてしまうこともありました。あのときはごめんなさい。しかし、家族はそんな



私に真剣に向き合って、塾や習い事の送迎をしてくれたり、勉強中にお菓子とお茶を持ってきてくれたりと常にサポートしてくれました。普段は恥ずかしくて口にはできませんが、ずっとそばで見守って温かく育ててくれる家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。十五年間ありがとう。これからもう少し思春期が続くと思うけれど、よろしくお祈いします。

たくさんの楽しかった思い出の中には、いつも三年生のみんながいました。私たちは幼稚園や保育園、小学校の時からずっと共に過ごしてきました。小学校の時に二つの学校が合併してからもすぐに打ち解けて、仲良

くなり、グラウンドや公園でけいどろをして遊んだ日々が懐かしいです。中学校で休み時間に流行りの曲を歌ったり、冗談で盛り上がったことや、部活動が終わった後に他愛もない話をしながら帰ったことは、私にとってとても大切で楽しい時間でした。特に受験直前には、教室で友達と笑っている時だけは、勉強のことを忘れてリラックスすることができ、何度も友達の存在に助けられてきました。今、卒業を目の前にしてこれまでの一瞬一瞬がどれだけ大切だったのかをより強く感じています。三年生のみんな、これまで嬉しい時も大変な時もそばにいてくれて本当にありがとう。高校生になって離れ離れになっても、ときどきみんなが集まって遊びたいです。

私たちは四月から新しい環境に身を置くこととなります。友達と離れるのは寂しいし、高校に入って上手くやっっていけるのかとても不安です。しかし、この三年間でたくさんのことを学び大きく成長した私たちなら、どんな壁があっても乗り越えていけるとおもいます。上野幌中学校で得た学びや経験を活かし、一人一人が社会で活躍していけるよう、どんなことにも諦めずに挑戦し、まっすぐ突き進んでいきます。

結びに、上野幌中学校の益々の発展を願っています。私たちの中学校生活を見守り、支えてくださった皆様、三年間本当にありがとうございました。

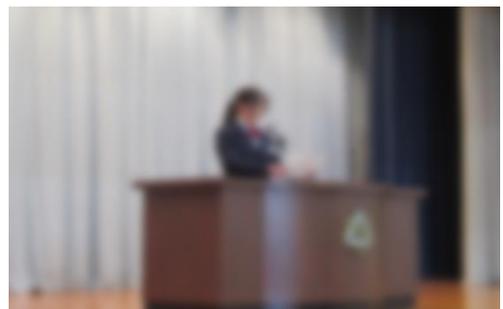
送辞～お祝いのことば～

在校生代表 2年

少しずつ春の訪れを感じられる季節となりました。本日、晴れの日を迎えられた三年生のみなさん。ご卒業おめでとうございます。今、こうして皆さんの姿を見ていると、これまで皆さんと過ごしてきた学校生活のさまざまな場面が思い出されます。私たち一、二年生にとって、皆さんは委員会や部活動、学校行事などあらゆる場面で、上野幌中学校を引っ張ってくれる存在でした。私たちが新しい制服に身を包み、期待と不安の気持ちで迎えた入学式。右も左もわからずに緊張していた私たちにとって、堂々とした姿で参加していた先輩方は、とても頼もしく、「いつか自分たちもあんな先輩になりたい。」と感じたことを今でも覚えています。

私たちが初めての部活動や委員会では何をすればよいかあまり分からなかった時、皆さんは「大丈夫?」、「何か困っているの?」など温かい言葉をかけてくださり、私たちを見守り、支え、助けてくださいました。日々の学校生活の中でも、皆さんはいつも私たちにやさしく接してくださいました。私はそのような三年生の姿を見て、ますます憧れの気持ちが強まっていきました。

三年生の皆さんと過ごした日々の中で、いちばん印象に残っているのは、やはり「秋華祭」です。先輩方が作り上げた作品はどれも素晴らしく、心に残っています。ステージ部門では、衣装や大道具が細部まで作り込まれているだけでなく、三年生らしい個性豊かな演技で、会場全体がとても笑いに包まれていました。役者の皆さんもセリフや間が完璧で、「よりよい発表にしたい。」という熱い気持ちが伝わってきました。展示部門では、見るだけではなく、実際に体験できるコーナーがあるなど、一つ一つの作品の完成度が高く、たくさんの人が展示を見に訪れていました。合唱発表会では、三年生の皆さんが歌い始めた途端、場の空気が変わり、その美しくそろった歌声に、会場にいる全員が引き込まれていくのを感じました。私が生徒会役員として活動していく中で、いちばん思い出に残っているのは、秋華祭の幕間企画です。私は人見知りですが、毎日先輩たちと活動できるのか、少し不安な部分もありました。準備期間が始まってすぐに、そんな不安も忘れてしまうくらい先輩方は私に接してくれ、年下の私でも話しやすい空気をつくってくれました。先輩方のお



かげで、忙しくて大変な生徒会活動も、いつも楽しく感じられました。先輩方と一緒に活動できた日々は、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

三年生の皆さん。これからの道のりには、素晴らしい出会い、楽しいことがたくさん待っていることでしょう。時には悩んだりすることもあるかもしれませんが。そんな時には上野幌中学校で過ごした日々、共に認め、励まし合った仲間たちのことを思い出してみてください。そして、それぞれの夢に向かって歩いていってください。私たちは、皆さんが夢や目標が叶えられるよう、いつでも応援しています。最後になりますが、みなさんが築いた上野幌中学校の伝統や温かい雰囲気は、私たち一、二年生が確実に引継ぎ、これからの学校生活をよりよいものにしていけるよう努力していきます。卒業生の皆さんのさらなるご活躍と、輝かしい未来をお祈りしています。本日はご卒業おめでとうございます。そして、今までありがとうございました。

3年間の思い出と共に～送別セレモニー～

昨日3月12日（木）、生徒会主催による「卒業生送別セレモニー」が行われました。この日のために、生徒会が中心となって企画し、在校生は卒業生への感謝を込めて、校内の装飾や一人一人へのメッセージカードを心込めて作り上げ、門出にふさわしい温かな空間を準備してきました。セレモニーでは、三年間の歩みを振り返る思い出のスライドが上映され、懐かしい映像に会場が沸く場面もありました。続く手紙の発表では、委員会、部活動、そして兄弟の各代表生徒が、先輩方との絆、憧れや感謝の意持ちを言葉に紡ぎ、体育館は終始、感動と温かな拍手に包まれました。

